

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

アクティブ・ラーニングで児童の思考力・表現力の向上を目指す

- 1 単元を見通した授業改善
→単元の中に、教師が教えるべき場面と子ども達に考えさせる場面をバランスよくデザインする。
- 2 教師の発問と支援の方法
→子どもが主体的に考えられるような教師の発問や言葉かけを研究する。また、目指す児童のつぶやき・発言を指導案に示す。

＜本年度の学力向上策＞

- ◎児童のアクティブ・ラーニングを生み出すために、「教師もアクティブ・ラーニング」を合言葉に研修を進める。
- ◎分かりやすく、子どもがしっかり考えて学べるような授業を行う。
本年度研究主題である「主体的に考え、豊かに伝え合う七里っ子を目指して」～アクティブ・ラーニングの視点を生かしたよりよい授業づくり～に基づき、児童が主体となって活動することのできる授業づくりに取り組む。そのために、単元を見通した授業改善に取り組み、教師が教えるべき場面と子どもたちに考えさせる場面をバランスよくデザインする。
 - ・「どのようなものをアクティブ・ラーニングというのか」、根本から捉えなおして本校としてのアクティブ・ラーニングを進める。
 - ・アクティブ・ラーニングを意識した学習活動がより主体的・対話的な深い学びになるように、学習方法、学習形態、課題設定、ICTの活用方法などの研究を深める。
- ◎教材を工夫したり、教え方を改善したりしながら学習を行う。
校内授業研究会等の機会を活用して、話合いの効果的な取り入れ方や主体的に取り組むことができるようにすることについて協議し、理解を深める。教師の発問や言葉掛けの研究も進める。
 - ・低学年（生活科）、・中学年（理科）・高学年（社会）を中心として研究を進める。
 - ・日ごろ取り組んだアクティブ・ラーニングの授業について1人1つの報告する機会を計画する。その際は、全員が参加できるように小グループに分かれて報告し合うなど工夫する。
 - ・よい授業の分析シートを活用した実態調査を行う。4つの因子を意識した授業に取り組むよう教師自身の振り返りを行う。
- ◎学習規律の確立の徹底
 - ・児童指名方法 ・挙手の仕方 ・発問の仕方 ・板書の工夫 など

＜本年度の振り返り＞

- ・教員の研修で3グループに分かれ研究授業の成果と課題を出し合った。学習の流れに当てはめることで構造的に授業を分析した。
- ・月1回、よい授業の項目を自己評価し、日頃の授業にアクティブ・ラーニングを意識的に取り入れた。学期に1回、様々な教科・単元においてアクティブ・ラーニングの視点で行った授業を報告し合い、考えを深めた。